

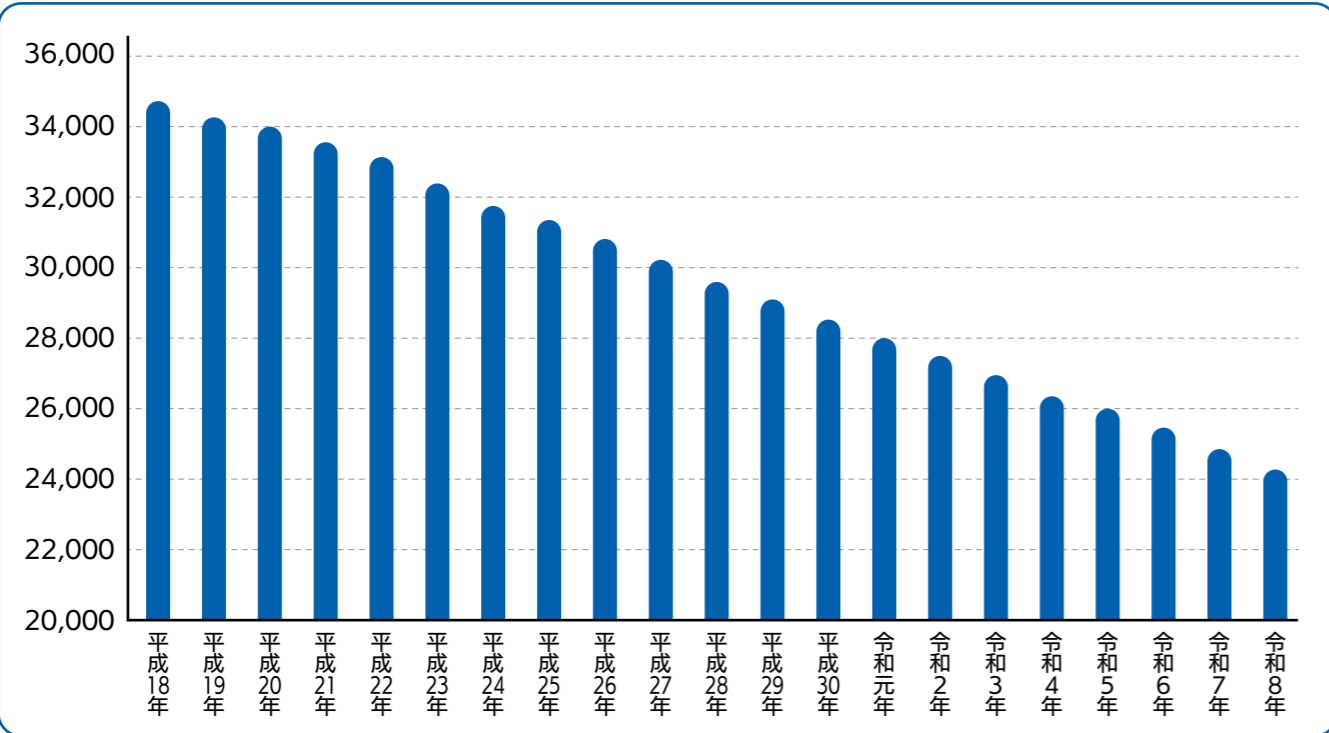
# 人口減少とどう向き合うか 市制20年の現在地 —国東市の挑戦と未来—

国東市が誕生して20年。この歳月の中で、私たちのまちの人口は約1万人も減少しました。しかし、私たちはこの減少をただ静観しているわけではありません。今回の特集では、数字を通して国東市の現在地、そして未来に向けた市の取り組みをご紹介します。これから国東市を、共に考えていきましょう。

☎ 総務課 秘書広聴係 ☎72-5192

## 国東市の人口は、いま

(住民基本台帳調べ)



国東市の人口は、現在24,281人(令和8年5月31日時点)。平成18年3月31日の合併当時(34,726人)から、10,445人減少しています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、現在の傾向が続けば、令和42年には人口が約11,000人まで減少するとされています。

しかし、この課題は決して国東市だけの話ではあ

りません。昨年実施された国勢調査では、全国でも過去最大の人口減少を記録し、増加したのは東京都と沖縄県のわずか2都県だけ。日本中の多くのまちが、同じ現実と直面しています。

人口減少というこの時代の難局を乗り越え、10年先、50年先も持続可能なまちを築き上げることは、本市にとって最優先の使命です。

## CONTENTS 目次

- 2 **特集** 人口減少とどう向き合うか  
市制20年の現在地 —国東市の挑戦と未来—
- 8 市からのお知らせ
- 14 くにさき情報ナビ
- 18 子育て 子育てカレンダー／私の宝物／ひだまり
- 19 健康 健康カレンダー／国東つながる引き出し／くにさき国保だより
- 20 相談／休日当番医
- 21 くにさきわくわくコラム／くにさき学
- 22 人権シリーズ
- 23 図書館つうしん
- 24 まちの話題TOPICS
- 26 お誕生おめでとう／お悔やみ申し上げます／ひとのうごき／表紙のはなし
- 27 NHKのどじまん開催のお知らせ

## 数字で見る人口減少

人口減少の要因は大きく分けて二つあります。

一つは、死亡数が出生数を上回る「自然減」です(図1)。少子高齢化の影響により、本市に限らず、全国的に自然減が続いています。出生数の減少は、20代から30代の子育て世代の減少や、婚姻数の減少が影響していると考えられます。

もう一つは、転出者が転入者を上回る「社会減」です(図2)。合併以降、本市では平均で年170人ほどの社会減となっていますが、令和7年にはその数値が39人まで縮小しました。この変化を大きな弾みとして、今後も魅力あるまちづくりを推進し、「住み続けたい」と思えるまちを目指してまいります。

図1:自然減 生まれる人より亡くなる人が多い

出典：人口動態調査(厚生労働省)を基に作成

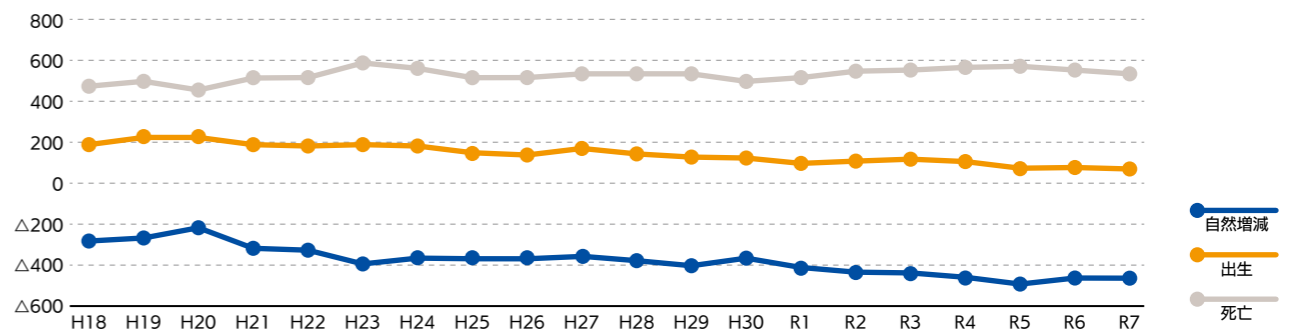
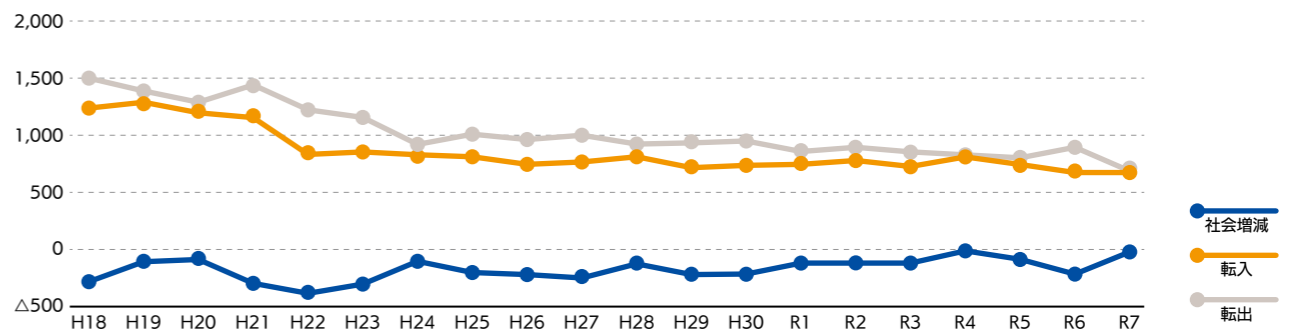


図2:社会減 入ってくる人より出ていく人が多い

出典：住民基本台帳人口移動報告(総務省)



また、本市の人口ピラミッド(図3)を見ると、いわゆる団塊の世代が75歳以上となり、高齢者人口の割合が高くなっていることがわかります。一方で、地域経済や社会を担う生産年齢人口(15歳以上65歳未満)と、将来を担う年少人口(14歳以下)の割合は低く、人口減少と少子化が同時に進行している現実がわかります。

今後は、20代から30代の子育て世帯に選ばれるまちを目指すことで、出生数を回復させていくことが重要です。

人口減少の影響は、産業や地域コミュニティなど、私たちの暮らしの身近な部分に広がっています。

こうした課題に対し、市が現在取り組んでいる施策をご紹介します。

図3:人口ピラミッド

(住民基本台帳調べ)

